

第9回日本ジオパーク全国大会・アポイ岳（北海道様似町）大会についてのレポート

10月6日（土）～8日（月）に、アポイ岳（北海道様似町）大会が開催されました。

本大会ではジオパークが誕生してちょうど10年です。この間、世界においてはユネスコのプログラム化、日本においては認定地域の増加など、内外のジオパーク活動が大きく拡大・発展してきたことから、この節目を機会に、これまでの活動を振り返りつつ、これからの10年を歩むうえでの目指すべき理念や方向性を議論するというテーマを掲げていました。

本大会のスケジュールについては以下の通りです。

平成30年10月6日（金）～8日（月）（プレジオツアーは4日（木）から）

4日：プレジオツアー（本大会の分科会の前半として、アポイ岳以外の道内ジオパークで実施）

5日：プレジオツアー／様似町へ移動／アポイ岳GP内視察

6日：開会セレモニー／基調講演／分科会／ポスターセッション／ブース展示／大交流会／地元物産展ほか

7日：分科会／パネルディスカッション／閉会セレモニー／ポスターセッション／ブース展示／ポストジオツアーほか

8日：ポストジオツアー（アポイ岳）

※5日は日本ジオパークネットワーク各種会議（事前相談会、運営会議）を開催。

私が大会に参加したのは10月6日、7日でしたが、5日に前乗りをし、アポイ岳への登山を行いましたので、5日から様似入りしたところからレポートしたいと思います。

様似といえばアポイ岳、アポイ岳といえばかんらん岩と高山植物と私は認識していました。

6日の地元中学生が発表してくれたポスターセッションで知りましたが、アポイ岳は土壌・気象・地理的環境によって、低標高ながら高山植生が成立している珍しい山だそうです。詳しく聞くと、約1,300万年前に起きた、2つの大陸プレートの衝突によってできた日高山脈。その衝突の際、地殻の下にあるマントルの一部が突き上げられるように地上に現れたのが地球深部のマントルの情報をそのまま持っている新鮮なかんらん岩だと。

そのため、低標高ながら高山植生が成立し長い期間高山植物が見られるということで沢山の観光客が訪れていると知りました。そしてもう一つ不思議な植生として、アポイ岳では森林限界を抜けると山頂まではハイマツ帯で山頂はダケカンバで覆われ景色があまり見られないという残念なことがありましたが、よくよく考えてみると、通常の高山の植生は山頂がハイマツ帯でその下にダケカンバ帯というのが通常で、不思議な植生。

ビジターセンターの情報によると、アポイ岳では山頂付近だけでなく、通常1000mや2000mを超えないと見られないような高山植生帯がわずか300m付近でも見られるようです。

登山が得意ではない方や、子どもでも高山植物が手軽に見えるのはアポイ岳が人気の訳です。

その裏返しで、簡単に盗掘が出来てしまい、貴重な資源が荒らされてしまうのはアポイ岳での課題かと思いましたが、子どもたちが高山植物を守る取り組みをしていたり、アポイ岳の資源を地域の資源と認識して取り組んでいる姿に感銘を受けました。いつかアポイ岳も民間所有の山にする必要があるか！？

と壮瞥町民ながら思う・・・

6日の基調講演については、世界ジオパークネットワーク会長のニコラスさんのお話を伺う事が出来ました。とても印象に残っているのはジオパークとは地質が主役ではないと、そこに住む人々が主役であり、人が作り出すネットワークづくり、ジオパーク通しの結びつき、それは日本のみならず世界のなかで行う事が大事なんだという事を聞いたのが印象的でした。

そう言ったこともあり、そこからつながる分科会でも講演会はありましたが、人と人との交流をととても盛んに行っていました。

私が今回参加した分科会は

三笠ジオパークが行う「教育」をテーマにした分科会「**学びが生み出す地域の未来づくり**」という分科会でした。私自身、今回の目的がまさにこれで、「教育」という視点で、各地域のジオパークがどのような視点でジオパークと教育とを結びつけているのか？というのを知りたかったというのがありました。私の今後の目標の中で「壮瞥町」の魅力である「減災教育」を地域資源としてもっと多くの方に知ってもらい地域活性を目指して行きたいという思いがあるので、今回の教育をテーマにした分科会はまさに求めていたテーマです。

今回の教育分科会を通し感じたことと、ジオパークの全国大会を通し感じたことが同じだったのでここで合わせて振り返りたいと思います。

「ESD（持続可能な開発のための教育）」と「SDGs（国連で国際社会が合意した持続可能な開発のための17のゴール）」のこの2点について、とても強い主張を感じました。これは世界ジオパークの取り組みがユネスコの正式事業であるということも強く関連するとは思いますが、いろんな企業や行政もこのSDGsは積極的に目指しているの、今後ジオパークの発展に置いて重要なキーワードになってくることは間違いのないと思いました。

その中で、このSDGsを教育目線で考えた時に、「このジオパークの取り組みこそがすでにSDGsですよ、貢献しているんです！」というお話が印象に残っています。（ESD活動支援センターの方の講演）なぜならジオパークは地域の持続可能な開発のための活動であり、教育はジオパーク活動の不可欠な分野であるからです。

であれば、ESDがわざわざ掲げられる理由とは何だろうか？SDGsにすでに「教育」についての目標があるにも関わらず、わかりにくい横文字を並べて、しつこいように「持続可能な開発のための」を「教育」に付け加えるのはなぜなのか？

そこには教育の質を向上させたい国の狙いと、「持続不可能性」が様々な面で明らかになっているからだと話されていました。

そこで、ではなぜジオパークが良いのか？というお話が出ました。

日本の社会全体の仕組みが縦割りで町をまたいだことになれば、各市町村の意見があったり、担当者が変わっていたり、責任をなすりつけたりして、事がなかなか進まない事があります。

例えば川は繋がっているが、市町村で分けられていたりする事で、あそこは〇〇町の管轄だとか、あちは〇〇町の管轄だとか・・・

しかし、これをジオパークに当てはめた時に、この縦割りを超える仕組みが内在している、という話でした。そして、教育という現場でこのジオパークを扱うとなった時に、色んな立場の人（教育関係者、地域住民、ジオパークに関わる人）が対話をする場を作ると。

これがジオパークの内在する力ではないか？と言う事が強く言われていました。

それと、コミュニティスクールの説明の話で、元壮瞥町教育委員会の方が来て、壮瞥町で行われる郷土史講座での取り組みについて話をされていました。郷土史講座は昭和神山、有珠山登山に登り減災教育を行うというのが目的で行われていますが、それが35年続いていることはジオパーク活動での先駆けではないかと。いろいろな事情を知る私は、それを聞きながらいろいろな課題も考えました。

まず、率先して行ってきた岡田先生の後継問題や、今昭和神山でおかれている入山禁止（教育委員会では昭和神山山頂が崩れる可能性があるため危険と判断し、今年の昭和神山登山は中止になりました）の件について。

私がずっと思っていたことですが、昭和神山へ登らせるのはいいのですが、その後の振り返りがなされないことや、登れば良いのか？というところでした。

35年続く伝統的なやり方で、子どもたちに減災教育が根付いてきたのならば、さらにそこから一步踏み出し、子供達に考えさせる、発言させるような場面を作っていくべきかと思いました。

今回のジオパーク大会でポスターセッションをさせると言うのも良かったのではないかともしました。

(せっかくの北海道大会なのに、洞爺湖有珠山から子どもたちが活躍する場面がなかったのはなぜでしょうか?)

今、壮瞥町ではこの火山への登山をコミュニティスクールではなく、学校のカリキュラムの中でできないか?というチャレンジにも向かっている最中なので、町民の一員である私も何かしらの形で関わって行きたいと考えていました。

最後に、最終日パネルディスカッションについてですが、いろいろなパネラーの方のお話がありましたが、印象に残ったのは、様似町でガイドを行う小林さんのお話でした。

様似町はアポイ岳に来る観光客が多いにも関わらず、宿泊場所が少なく、観光名所も少ないことから滞在してお金を落とす方が少ない。そう言った人の流れがあるにも関わらず、町が金銭面で潤っていかないと言うのは現在の課題です、と言うお話をされていました。それはジオパーク活動的には成功に至っていないと言えるのか?とも思いますが、持続可能な経済活動ができないと世界のジオパークとしてどうか?と言う話も出てくると思うので、ここは北海道のジオパークでも検討していかなければいけないのかもしれないかもしれません。

私は今回の大会でジオパークの全国大会をようやく体験する事ができました。

まず、ジオパークに関わる人たちが日本にこれだけいるのだというのが実感できましたし、交流を通して互いの課題や悩み、成功例などを聞ける事ができて、非常に良い時間を過ごす事ができました。

ジオパークはひとことで説明することは難しいけれど、多くの可能性を秘め持続可能な社会を作るのに、とても最適なツールなんだと認識しました。

単なる地質遺産的な目線でのアプローチだけでなく、このジオパークを使って自分に何ができるのか?という視点で今後は活動目標を立てて行きたいと思います。

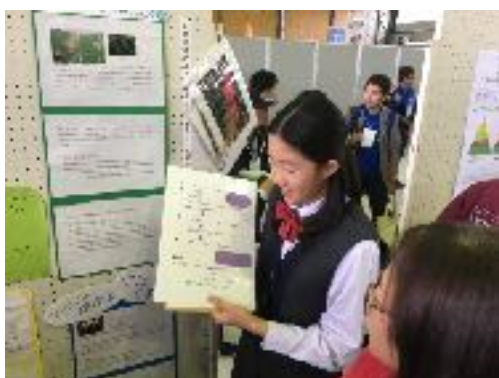
以下は写真を使っての説明です。



アポイ岳へジオ友メンバーでプレツアー。

今年、早池峰山に次ぐ檜欅岩。

全員無事下山後、アポイ山荘での宿泊はとても楽でした。



地元、様似町の中学生のポスターセッション。

とても良い試みだと思った。

のと、日本の教育の課題だと思ったのが、文章を丸読みでの説明。

自分の言葉で話せる教育ができれば、きっと素晴らしい人材が育つだろうと思う。



イラストと、写真ととても完成度の高い
ポスターに感動。
逆に勉強になった。



ジオパーク活動における教育とはなんだろうか？というグループワークでは、様々なジオ関係者の方と話をできる事ができ、色々と刺激を受けた。教育と言っても、子どもを対象とした教育だけでなく、ガイドを育てると言う意味合いでの教育もあるのだと認識。

伊豆半島ジオパークでは、ジオ認定ガイドが100人を超えているが、どうも専門家から教わった知識をそのまま話すことが多く、本来のガイドとは離れてしまっている人が多いので、そこは課題だと言っていた。ガイドは、お客様をいかに楽しませて、満足度をあげるか？と言うことが大事だと思った。



帰りながら鵜川の道の駅にて少しでも応援できればと、
買い物を。

鵜川の道の駅は未だ避難所になっていました。
色々と考えさせられることがあります。